

厚真高等学校 平成28年卒業式祝辞

厚真高校第3学年22名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、保護者の皆様、学校長をはじめ諸先生の皆様、重ねてお祝いを申し上げます。

まだまだ寒い日が続いていますが、間もなく新しい門出、旅立ちにふさわしい春が訪れます。卒業生の皆さんは、その日を心待ちにして心躍る気持ちだと思います。

皆さんは、この3年間に厚真高校の生徒として、学生の本分である勉強に、クラブ活動に、或いは生徒会活動に情熱を注ぎ、青春の血をたぎらし、たしかな友情を深めあったと思いますが、その他にボランティアやイベントへの協力、学校行事などを通して、本町に明るい話題を沢山提供していただきました。改めて心からお礼を言います。

先ほど授与された卒業証書の末番号は2132号だったと思いますが、厚真高等学校が60年を超える歴史の中で輩出してきた卒業生の数となります。皆さんも多くの卒業生と同じく、伝統或いは歴史の1ページを立派に飾ることになりました。皆勤賞を受賞された皆さんにも、改めておめでとうと言います。やり遂げることの難しい中、大変立派なことであり、大いに自信を持っていただきたいと思います。

皆さんはこの厚真高校で、得難き時を過ごし、得難き沢山の友と出会ったと思いますが、いよいよ明日からは、甘えの許されない厳しい現実が待っています。これまで多くの方々から多くのものを与えられてきた皆さんですが、これからは自分の力で、勇気と智慧と努力で未来を切り拓いていかなければなりません。その為にも新たな目標をしっかり持つことが大事です。それでも紆余曲折があり、希望と違う道を歩むことになる場合もあるかと思えます。そういう場合でも決した逃げ出すことなく、自分が置かれた境遇を素直に受け入れ、その場所で最善を尽くすことが大切です。どんなときも自分らしさを見失うことなく、強い信念を持っていれば、自分の進むべき道は必ず見つかります。意志あるところに道ありです。

ここで松下幸之助作「道」を紹介したいと思います。

「自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。広いときもある。狭いときもある。のぼりもあればくだりもある。坦々としたときもあれば、かきわけかきわけ汗するときもある。この道がはたしてよいのか悪いのか、思案に余るときもあろう。慰めを求めたくなるときもあろう。しかし、しょせんはこの道しかないのではないか。

あきらめろというのではない。いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。自分だけしか歩めない大事な道ではないか。自分だけに与えられているかけがえのないこの道ではないか。

他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。」

皆さんの進むべき道も、決して平たんではありませんが、皆さんには大勢の理解者がいます。固い意志と困難に挑戦する勇気をもって、多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねを大切にしてください。いつか必ず大きな実を結ぶことになるかと信じています。

結びに皆さんの未来に幸多かれと祈念し、保護者の皆様、諸先生方のご労苦に感謝申し上げます。厚真高校のご発展を祈念して、祝辞と致します。本日は誠にありがとうございます。

平成28年3月1日

厚真町長 宮坂 尚市朗